

平成 28 年 3 月 31 日

平成27年度総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する()に ○を付ける	・海外共同 () ・共同研究 () ・個人研究 (○)	
研究代表者 (所属・職・氏名)	宮武恵子 (家政学部・教授)	
研究課題名	デニム素材を使った創造的デザイン —素材開発の実態と商品企画—	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
研究期間	平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日	
海外共同研究を実施することになった経緯 (海外共同のみ)		
研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書 第 18 回日本感性工学会大会 2016 年 09 月 09 日(金) ～ 2016 年 09 月 11 日(日) 日本女子大学 目 白キャンパス 学会発表予定		

研究実績の概要（1）

【現地調査の概要】

2015年8月20日 有限会社 ココロ（サンプル作成依頼、現在のデニム業界についてのヒヤリング調査）

2015年8月21日 児島ジーンズストリート（店舗の実態や商品展開についての調査）

【サンプルの概要】

有限会社ココロの商談室にて、業界の実態、現在売れている商品の情報、さらに今後の市場の方向性等を含めてブレインストーミングを行った。それらを総合的に検討した結果、サンプルのデザインは「スキニー」4本、「フレア・パンツ」4本とした。「スキニー」は、綿100%の10ozの素材で、ステッチの番手や色などのディテールで変化を示すこととした。「フレア・パンツ」は、綿100%の10ozの素材で1本、綿98%・ポリウレタン2%の10.25ozで3本作成することとした。ストレッチの有り無しや、日常の動作による履き心地の違いなどを示すサンプルとして考えている。「フレア・パンツ」は、加工による違いも示すことができるように設定をした。

【サンプルアップまでのスケジュール】

2015年11月3日 ファースト・サンプルアップ

2015年11月10日 ファースト・サンプルの検討 於共立女子大学911 被服意匠研究室

2015年12月1日 セカンド・サンプルアップ

2015年12月17日 セカンド・サンプルの検討 於共立女子大学911 被服意匠研究室

2016年2月17日 サンプルアップ

2016年2月24日 サンプルの検討 於共立女子大学911 被服意匠研究室

2016年2月25日 修正サンプルの依頼と出荷

【現地調査までの予備調査の概要】

デニム（denim）とは、綾織りの厚手綿織物で、通常は経にデニム素材特有のロープ染色手法によるインディゴ（天然染料、藍、合成染料）で染めた6～10番手の糸を使い、緯は6～12番手の晒し糸を使う。一般的には14オンスデニム（経7番手×緯6番手）であるが、レディス向けには10オンス（経10番手×緯10番手）のライト・デニムが使われることが多い。日本国内では三備地方（児島、倉敷、福山）に多くの製造拠点、メーカーがある。その歴史は古く、技術は試行錯誤をして現在の日本のジーンズ＝デニムが海外で高い評価を得るまでに至っている。デニムを扱う製造会社の中で、カイハラ株式会社様（以下：カイハラ（株））は1893年に広島県芦品郡（現福山市）新市町に手織正藍染緋を製造する個人商店を開業し、後に世界に向けてデニム生地を供給する巨大デニムメーカー「カイハラ」となり、現在ではジャパニデニムを代表する会社として世界で知られている。2014年9月にカイハラ（株）に訪れたことが本研究を始めるきっかけとなった。特徴である紡績→染色→織布→整理加工というデニム製造の主要な4工程を垂直統合させ、国内で初めて一環生産ラインでのデニム製造を確立させた経緯や、備後緋で培った繊細な糸染めの技術力が、デニム糸の生命線であるロープ染色に応用され、品質向上と効率化のための先端技術の導入と合わせて、一方では古いシャトル織機を熟練の職人が駆使してヴィンテージの風合いを持った生地を生産に取り組んでいる実態について具原良治会長からお聞きすることができた。また同時期にジーンズ

の加工として最も流行し、後にワールド・スタンダード加工となったストーン・ウォッシュの技術を生み出した豊和株式会社（以下：豊和（株））を訪問し、デニムの加工技術について解説していただいた。豊和（株）は、斬新なアイデアから生まれる加工の技術で他社とは違う試みをしている。粒子の細かな砂をブラストマシンで吹き付け、デニム表面を削るブラスト加工。前述したストーン・ウォッシュは当初は人口石だったものを、現在では鹿児島の天然の軽石を使うこだわりやレーザー加工などの最新の技術にも触れることができた。

筆者の今までのアパレル企業におけるデザイナーとしての業務経験から、デニムは素材の特性上、生地加工による縮率の違いや、特殊ミシンによるステッチ糸の番手や色使い等の特殊な生産背景を持っていることを認識していた。産地を訪れて調査することによりあらためて特殊技術を含めた生産工程が必要であると理解できた。また、それらの技術を組み合わせるとデザインの可能性がさらに広がる。

これらの予備調査を背景に、産地での技術を組み込み、素材収集→パターン作成→縫製→加工などの工程を経て、サンプル作成することを本研究の草案としている。

サンプル縫製を依頼する有限会社ココロにおいての打ち合わせからサンプル完成までのプロセスを含めた詳しい考察や分析、デニム素材にまつわる現状、展望などに関しては追って紀要論文で論じる。

（引用・参考文献）

- 1) 「ファッション辞典」 文化出版局 2012年2月 316頁
- 2) 「Made in JAPAN」カイハラ株式会社
- 3) 「Kaihara Denim」Free&Easy 2011年10月号、11月号抜粋
- 4) 「会社案内」カイハラ株式会社
- 5) 「HOWA」豊和株式会社

